

# てくてくタイム

H16.12.24  
中川小学校 8  
生活科・総合だより

中川小学校の生活科・総合「てくてくタイム」も3年目。14年度に、学年テーマによる地域学習・国際理解教育・コンピュータスキルからスタートし、15年度からは福祉教育と異学年交流を加えてカリキュラムを充実させてきました。今年度もそれぞれの学年がいろいろな工夫をしながらテーマにトライしてきました。

1学期てくてくタイムの各学年の取組をお知らせします。

## 1年生 「わたしもできるよ」(11月～12月)

おいしくな～れ。



しわをしっかりのばすよ。



きれいに洗えたね。



「おにぎりづくり」から始まって、「家の人の仕事調べ」、「家の仕事にチャレンジ！」へと進んでいきました。活動を終えるたびに、「次はあれやりたい」、「もっと～したい!」という欲求が生まれ、次々とチャレンジして、できることを増やしていきました。家族の一員としての自覚が生まれた子供たちは、冬休みも家の仕事をがんばってくれることでしょう。

## 2年生 「わたしの町大すき」(9月～12月)



時田衣料品店

本間理容所

古川駐在所

カントリーエレベーター

本間理容所ガイドブック

2学期は、1学期の探検の反省を生かしながら、2チームで各2カ所を探検し、チーム同士分かったことや発見したことを発表し合った後、学習のまとめとしてガイドブックを作り、訪問先でお世話担った人に届けました。

## 3年生 「レッツトライスポーツ」(10月～12月)



最初に自分の体力テスト結果から、「マイスポーツ計画」を立てました。また、地域のスポーツ指導者の3人と交流したり、アドバイスを受けたりしました。中野道弘さん(ドッジボールスポ少「かめれおん」部長) 小坂博司さん(中川区体育振興会会長) 中野美和子さん(村公民館体育指導員)

どの先生とも楽しく体を動かして勉強したよ!



### スポーツ指導者からゲットした スポーツヒント(一部)

「上手になりたい」という気持ちが大変。みんなで力を合わせること(チームワーク)が大事。走ったり跳んだりすると骨が丈夫になる。これらのメニューを実践しながら、「ウルトラ健康学級」を目指します。ファイトっ、おっ!

### スポーツヒントを生かした 運動や遊びのメニュー

たすけ高オニ たすけ手つなぎオニ 手押し車オニ たすけ地蔵オニ 障害物リレー ドライブリレー 背筋20回 体育館7周 体で感じて 新聞乗りジャンケン 二人で一人 タオル取りサークル おつかい遊び うちわサッカー 風船取り合い ボールパスあいっこ 王様ドッジ ボウリングサッカー

## 4年生 「めざせ!桜博士パート2...全校桜クイズ大会と加治小3・4年生との交流会」(9～11月)

### 「お年寄りと仲良くなろうパート2...さくら苑訪問」(12月)

中川での全校桜クイズ大会。発表練習もたくさんしたよ。

加治小3・4年生へクイズの出前。真剣に考えてくれた。



1学期に調べた桜のことを全校桜クイズにして発表。加治小の3・4年生とも桜クイズで交流。ドッチで遊んだりして友達になった。2回目のさくら苑ではパンジーを届け、「世間話」をしたりオペレッタを演じたりして喜んでもらった。

僕たちの育てたパンジーです



## 5年生 「ハンディキャップの向こうに」(7月～12月)

5年生は、2学期とことん福祉の学習に取り組みました。たくさんのゲストティーチャーの方の御協力を得て、障害を持つ方のお話をお聞きしたり、ハンディキャップ体験・介助体験をしたりしました。最後は、ボランティアセンターに見学に行き、自分たちにもできるボランティアについて考えました。

素晴らしいゲストティーチャーの方々と心の交流がありました。



さくら苑の方の助けをお借りして車椅子介助の心構えについて学びました。「ちょっとたいへん」



## 6年生 「年をとってどんなこと?～さくら苑に新定番ゲームを提案しよう!」(9月～11月)

ダスト・ボックス



的に入れると、鈴が鳴る工夫をしてあるんだね。

靴下をまとめることはリハビリと生活に役立ちます。



くつ下まこうZe

ふうせんバレー



それ!風船バレーは盛り上がるね!

村の福祉施設さくら苑に対する6年生ならではのアクションとして、自分たちが考えたゲームを提案し、さくら苑の新定番ゲームに採用してもらおうという「みんなで若返ろう!中川ゲームプロジェクト」を進めました。そしてついにお年寄りの立場に立った楽しくリハビリにもなるゲームを作り上げました。お互いのグループのゲームを紹介し、批評し合いながら、また介護士の方にもアドバイスもいただきながら、より完成度の高いゲームを目指しました。最後に実際にさくら苑のお年寄りに自分たちの考えたゲームを提案しながら、ともに楽しみました。この学習で、生のお年寄りとのふれあひながらお年寄り自身や彼らにかかわる仕事をする人々の思いや努力を感じ取り、自分たちができるお年寄りの立場に立った支援を考えることができたと思います。なお、これらのゲームはさくら苑の新定番ゲームとして採用していただきました。